

## Ⅱ. 自由討論

### ○ 住民運動のネットワークづくり

小原 全県の市民運動の人たちとのネットワークについては、河井さんと6年前に話をした。河井さんは先見の明があった。うまくはいかなかったが、参考になった。ひろげていくことは大事だ。6年まえに県会議員選挙をやった。河井さんのグループで役員会があり、招待された。選挙についてがんばったのでお話しした。河井さんの「大島の静かな空を守る会」とわれわれのグループと一緒にネットワークのかたちで、それぞれがそれぞれの目的でやるけれども、なにかのときは一緒に連携してやろう、という話が河井さんからあり、そうしようということになった。その後、個人的には協力したが、そこまでの成果がでるまではいってなかったという思いがある。われわれのグループでやろうというの、根っこには河井さんとの話があり、井原さんにも2年まえから話を聞きながら、ネットワークをつくって、いざというときはみんなが一気にたちあがるような、それまではそれぞれのグループがそれぞれやっていけばいい、と考えてきた。これからはネットワークづくりを大切にしなければ、輪がひろがらないのではないかと痛感している。

井原 最初の県議選では（ネットワークの力で）黒田さんを出し、2年前は藤本隆君を出した。

小原 私の人生のなかでこの6年間は最も充実した6年だった。河井、藤村、黒田、井原、重岡のみなさん、いろんな人と、選挙を通じてふれあうことができ、私にとっては人生でもっとも充実した6年だった。これは私の財産だ。私としたら青春の真ただ中という気分だった。いま体調がよくないので残念だが。森田実さんが大島から夜明けがはじまることを感じたといったのも、少しは私共のことをわかってくれたかと思う。あと若い人がそだってくれないと。

### ○ 原発の汚染水の問題

稲生 第1回の討論で、原発について「経済性と危険性」の問題をどう位置づけるかを「今後の検討課題」として挙げているが、汚染水の処理すらできていない状態の中で、原発問題をどう考えたらいいのだろうか。

南部 専門家ではないが、フランスの技術で汚染水の処理をしているようだ。この装置では、十分ではないので、ALPSという東芝製の大型の汚染水処理装置を今作っているが、稼働が遅れている。この装置で、金属に由来する放射性物質は除去できるが、処理後の水には、放射性のある重水が含まれているので、そのまま海に捨てることができない。結局、タンクに貯めることになる。

このように汚染水の処理問題は深刻である。これからは私の意見になるが、国が音頭を取って、全世界に汚染水処理技術の開発を呼びかけるべき時がきていると思う。

稲生 それでもなお汚染水はドラム缶にいったままの状態で放置されている。

南部 イオン交換あるいは吸着させた場合、固体の汚泥ができるのはしょうがない。それも放射性的汚泥として保管する必要がある。今みたいに毎日400トンの水をためるなん

てことはなんとかやめないと、早晚パンクすると思う。

稲生 放置しておくで地球環境の汚染までにおよび、大変な問題になるだろう。

南部 切羽つまると海に流してしまう。

小原 われわれは知らない。いつまで続くんだろうか、何年こういう状態が続くのか、一切知らない。最初からわかっている、それに対応せずにおったのか。疑問が出てくる。稼動したときの冷却水はどうなるのか。汚染してないのか。連鎖的に疑問がでてきて、国民もおなじだと思う。普通福島以外で稼動しているところは汚染水は出ていないのか。

南部 他の所では出ない。なぜ汚染水がでていうかという、原子炉に穴があいているので、地下水が入ってきている。しょうがないからタンクにためこんでいる。地下水を断つために原子炉の周囲に遮蔽板を埋め込む対策をやろうとしているようだが、どれだけ効果があるのかわからない。

## ○ 汚染水の処理技術

稲生 汚染水の処理技術がないのに運転を続けていいものだろうか。

南部 燃料リサイクルは「もんじゅ」がある。「もんじゅ」は動かないと思う。そうすると、出てきた使用済みの核燃料をどう処理するか、誰も考えていない。どんどんプールに貯め込んでいる。民間企業だと考えられないことだ。ただ置いておきゃいいと、福島と同じだ。タンクをどんどん作りゃいいと。まさに刹那主義以外のなにものでもない。

小原 1年たっている。今になってそれがはっきりしないと言うのは、日本の科学技術でね。

南部 利権がからんでいると思う。いま核燃料をフランスから買っている。その関係があって、フランスの技術をいれたのではないか。少し調べてみます。

藤村 今の自民党は、安全が確立されたら再稼働といっているが、安全が確立されるわけがない。たとえ確立されても、毎日プール4杯分出すのだから、海が変わらないわけがない。そのことはいわない。中電は海の温度が1度あがるだけだというが、1度あがるというのは大変なことだ。安倍首相がやろうとしているのは、正気のさたではない。上関に今から作るなんて、山本知事もみんな利権です。原発についてははじめから嘘ばかりできている。腹が立つ。電気料が高くなる。日本がやろうとしているのは正気のさたではない。上関原発の署名をとったとき、旧大島町では9割ぐらいとった。町議会は全員一致で反対決議した。しかし今はおかしくなっている。原発をすすめる人を選ぶというのが、国民がつまらんとする。資源がないというが、日本は沢山資源がある。ニュージーランドは地熱で電力を作っている。その技術は日本の技術だ。みんな利権です。民主党のときはまだよかったが、今はちがう。自民党をいれたらお先真っ暗になる、と言っている。

稲生 上関原発の工事再開もされるかもしれない・・・。安全性が確認されれば、という言われ方をしているが、危険な話であろう。

## ○ 県議会の実状

藤村 小原さんから話をきいて、いままで知らなかったと思った。

小原 本当のことを知っていただきたい。いま配った資料は県の県議全員や、大島の町会議員のみなさんにくばった。議員のみなさんにえりを正していただきたい。情報を知らせることができなかったのもわれわれの責任。これからも情報をながすべきだ。しかし大島では異端者あつかい。正義をかざしても正義ではない。それにまけたらおわりだ。6年ですこしはかわった。あまりにも壁が厚い。岩国のこれまでの運動に比べたらひよこのようなもの。上関の原発の方々は二十何年やっている。頭がさがる。まだまだやらなきゃいけないとおもう。危機感をかんじながら正義感、情熱を持つ。日本人は平和ぼけ、あまり関心をもたない。危機感、正義感をもちつつける、それは影響の大きい岩国だと思う。岩国から火がつくのではないか、そのときわれわれは応援しようと思う。

桑野 県議が押さえつけるというのがあった。立法の人間が行政に口をだす、それが実行できている。

井原 県会議員にそれができるのか。法律とか条例に基づいて行政は行われる。教育委員会は独立して条例に従って仕事をする。法律、条例はこうなっていると、きちんと対応すればいい。教育委員会はそういう気概がないのか。

小原 (高等学校統合案の) 見直しをもとめたら、はじめ教育長も事務局も認めてくれた。ところが教育長は、県議会議長が人事権、予算をにぎっている。教育長は議会の承認がないとなれない。人事権と予算をにぎられたら何もできない。議長は文教警察委員会を十何年位置づけている。県警本部長と教育長への影響力を保持したいのだ。

井原 予算は最後に議会が決定する。教育委員任命には議会の承認が必要。そのなかから教育長を知事が選ぶ。議長は権限をもっているが、議長ひとりをもってはではなく、議会がもっているのだ。柳居さんひとりが教育長を変えたりすることができるわけではない。柳居さんの横車を通さないで教育行政がちゃんと対応することは、本来はできる。知事がしっかりしておればできることだが、知事が議会と一緒にいるので、むしろ柳居さんのいうことを聞いてやれ、ということになる。ひとりの議員がものすごい力をもつことになる。

小原 島田さんという前の議長は、国会議員がみなひれ伏す人だ。それぐらい議長が権限をもって、知事でもなんでも、なぜこの人を議長にしたかということ、自分の言うなりになると考えたからだ。

## ○ 県会議員選挙についての疑問

井原 一人区だから無投票だから、県会議員が將軍様みたいになる。すべて柳居さんにお伺いをたてなければいけないことになっている。無投票はよくない。それが続くなんてとんでもないこと。

小原津智江 大島だけでは、3万人以上いなければ県会議員1人たてられないだろう。大島は1万9000人。「1票の格差」という問題としてやったらいい。

小原 これは6年前から言って居るが、圧倒的な数だから、全部つぶされる。

井原 田布施、平生などみな合併しなかった。1人区だから。県会議員が妨害したといわれた。

小原 今の自民党は何でもとおる。今年もある議員に相談したら、これはやるけれど、数

でこれらと思うとおっしゃった。今は私どもの会で、県民のほうから1票の格差、県全体について格差、区割りを再検討するように請願を出したら、おかしいことはできないのじゃないか。来月請願を出すつもり。請願を県会議長に提出した時、議長がおかしいことしたらいけないが、これはどうなるかわからない。権力を握ったら何でもやれる。山口県では昔から、自民党がずっとかためてきて利権でうるおっているから。

井原 49人議員がいるが自民党系が32人と圧倒的に強い。それがずっと続いていてやり放題だ。別の野党のひとがふえなければいけない。

### ○ なぜ行政職員は議員に弱いのか

河井 さきほど、県の議員が行政に影響力があるという話があった。町の役場の職員は、町会議員がくると弱いらしい。井原さんの時代にもそういうことがあったのか。

井原 みんなある。そういう世界をみてきた。政治をただす大きな方向として、議会の圧力、横車にまけない行政をつくるというのが、私がめざした大きなものだった。市長になってしばらくして、政治倫理条例を作った。そういう圧力にまけないで、法律にもとづいて行政を執行しなければいけないと書いてある。まず圧力を受けるのは現場の担当の課長、部長だ。はじめはそれに抵抗するが、副知事とか副市長とか、市長、町長が、お前のいっていることは正しいといってくれば、人事権は町長がにぎっているから、職員が安心してきちんとしたことがいえる。ところが市長が議員とつながっている場合がある。議員が賛成してくれないと、政治がまわらないから、議員のいうこともきいてやれよ、といわれ、職員もしたがわざるをえない。議会の場で部長、課長を徹底的につるしあげる。問題があつてつるしあげるのではなく、議員の強さを見せつけるためにやる。怖さを思いしらされる。まわりの部長なども、あの議員に逆らうとこうなる、と恐れるようになる。職員はどんどん言う事をきくようになる。抵抗した正義感のつよい人もいたが、結局間にはさまって、辞めざるをえなくなった。許せないこと。上司までもちあげて、組織できちんと対応するようにすべきだ。市長がちゃんとしておれば、職員はいじめられない。そういう条例を作った。圧力、要望はすべて副市長、市長まで上げて、上と相談することにした。自分ひとりでやらない。おかしいことを要求してきたら、メモして、場合によっては公表するぞ、という仕組みを作った。しかし大変だ。本会議の質問は1時間で終わることになっているが、委員会ではひとりの議員が何時間も質問することができる。誰もそれをおさえることができない。本当は委員長が統制すべきだ。圧力にまけないように条例を作る。情報公開条例を作る。市民の意見をきかなければならないという、議員はおもしろくない。市長は市民の意見をきかなくてもいい、議員の意見をきけばよいと考える。だから私は終始反対された。議員をてなずけることは簡単。議員がいつてくれたことをちょっときいてやれば、市長を応援するようになる。そうして手なづけて行き、裏で工作する。簡単なのです。しかしそれをやったら予算の無駄使いになる、いい政治はできない。それをやらなかったから、私は議員から嫌われた。県では何でもみな通って行く。質問も行政が書いたものを読み上げる。議会と行政がもめているほうが正常だ。大島では議案が否決されることはほとんどないだろう。

小原 大島の場合は河井さんのような人が議員になれば変わる。

井原 家内が議員になったら、考えられないようなことが一杯ある。質問の答えをみんな行政の担当者がつくって、1回質問して、答えたら終わり。何度も質問する人はあまりいないそうだ。ちょっと違うことを質問しようとするすると事務職員がとんでくる。岩国の市議会にもそういうことがあるが、県はもっとひどい。完全に癒着している。

### ○ どうしたらいい議員・いい政治家が出せるか

小原 信頼される県議会にならねばならない。みんながえりをただして、他県の模範になるような願いをこめてやっている。

井原 大島から新しい議員を当選させるとか。4－5人各地から議員がでたら、少しはかわる。

稲生 議会の実態が明らかになった。行き着くところはやはり、いい政治家を作ることだ。

桑野 その前に、いい県民をつくらにやいけん。

小原 これひとつでもいいから結果をだしていきたい。今回もあした裁判がある。新谷副議長の政務調査費を返しなさいという裁判である。いい県民がないといい政治家も生まれない。井原さんのようなまっすぐでいい政治家は、現実には議員が利権がらみで離れたりする。

井原 県民をそだて、市民をそだてる。両方だ。市民の思いをきちんとうけとめる政治の選択肢も示していかねばならない。キャッチボールのようなものだ。受け皿がなければどうしようもない。政治家のほうからきちんと政策を示していったら、市民も県民も答えてくれる。それは確信もって言える。岩国はこんな状態になっているが、本音では基地をこんなに大きくしてはいけない、原発をつくってはいけない、という声はかなりある。それを受けとめる政治がないから、政治の場に反映されない。情報公開すれば市民もきちんとかたえてくれる。

#### 発言者（50音順）

稲生 慧（岩国）	元公立図書館長
井原勝介（今津）	元岩国市長
河井弘志（大島）	瀬戸内ネット共同代表
桑野友博（油宇）	市民政党「草の根」
小原 勇（大島）	久賀高等学校同窓会長
小原津智江（大島）	周防大島町民
南部博彦（平田）	NPO 法人岩国パソコンの会理事

### Ⅲ. 今後の検討課題

- 1 チェルノブイリや福島県を、ふたたび居住できる状態にもどすために、ロシアと日本の政府は、国家的な事業として研究を推進すべきであろう。
- 2 原発からだされる汚染水の処理技術を、国家的な計画によって開発することが必要である。そのほか、放射性物質を無害にする技術も開発されなければならない。しかしいつになったら信頼できる技術が開発されるか、それは全く未知数である。それまでの期間、汚染水や放射性物質をどんどん蓄積していくと、地球は危険な状態になるであろう。技術開発の研究を進めるあいだ、原発の稼働は停止すべきではないか。
- 3 上関原発の動向について。
- 4 住民運動のネットワークづくりにおいて、それぞれの団体のもつ政策が、相互の連携を妨げる場合がある。それでは「いざというときにみんなが一気にたちあがる」ことはできない。仮に協力しても、たとえば選挙というときに、協力ができなくなることがしばしばあった。協力できるところだけ協力するということには、もともと無理があるのではないか。
- 5 大島では7割の住民が艦載機移駐に反対の署名をしたが、議会も町長も容認の方針を変更しなかった。署名運動にはどれだけ力があるのか。
- 6 ドイツの地位協定と日本の地位協定はどう違うのか。
- 7 低周波の騒音の被害についてもっと調査研究する必要があるのではないか。
- 8 県議会で、健全な議会機能をさまたげているものは何か。
- 9 議員選出の在り方について、何か新しい展開を期待することができるだろうか。
- 10 県行政が議員に振り回されないようになるには、県知事が行政職員をただしく指導すればいいが、県知事が健全な行政を行わないで、議員のいうことを聞いてやれというようでは、職員の正しい行動は期待できないのか。「政治倫理条例」に職員の判断、行動をコントロールする力があるのか。
- 11 いい政治家を作り出すためには、政治家を正しく選べる国民であることが必要であるが、その国民が、自分の利益を追うだけでは、いい政治家を選ぶことはできないだろう。過半数の国民に、欲をはなれて正しく判断することを要求することができるか。誰がどういう方法で国民を正しい方向へ指導できるのか。
- 12 議会制民主主義とは、欲望のかたまりである国民一人ひとりが自由に指導者を選んで、数の多数によって何が正義であるかを決定する政治制度ではないのか。

次の予定

弁士 藤村英子（周防大島町下田）

テーマ 戦前の教育から学ぶ、等